

平成 21 年 12 月 14 日

技術倫理教育の実態調査アンケートの結果

東京都市大学工学部都市工学科 皆川勝

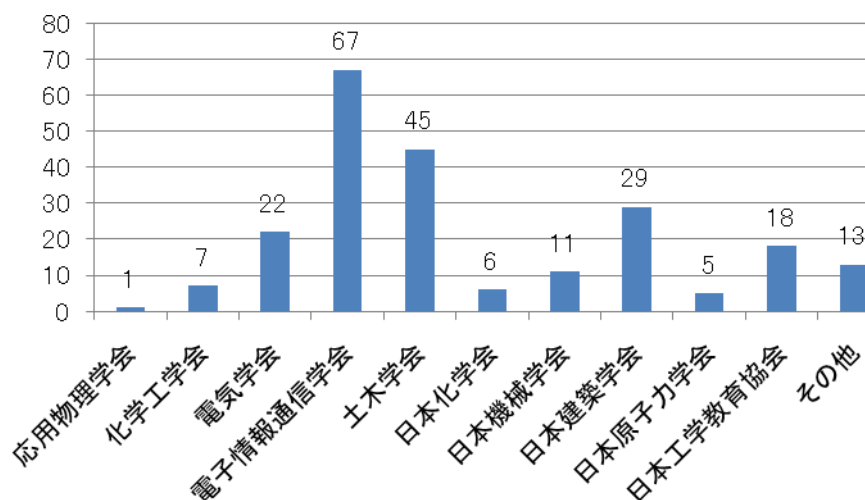
技術者はその高い技術力並びに公正な倫理観と行動規範に基づき、人類の安全と福祉のために貢献をする使命を担っています。しかし、公共工事に関する談合、食品の安全など企業・個人の職業倫理を問われる社会的問題が頻発しており、公的機関がかかわる不正も少なくありません。また、大学や研究機関における、研究費の不正使用や論文捏造・データ改ざんなどの事例も後を絶ちません。このように、技術および技術者の倫理的な対応が社会で問題となる機会も少なくありません。そこで、科学技術に関係の深い 12 の基幹的な学協会（*）間で協議し、技術倫理および技術者倫理に関する共通課題の協議や、倫理の普及・推進・検討および問題解決などを図る目的を持って 2004 年 4 月に技術倫理協議会が設置されました。

本協議会では、上記の目的を達成するために、国内外の技術倫理綱領の比較・分析、技術倫理に関わる諸課題の把握などを行うとともに、公開シンポジウムを定期的開催して産官学の多くの参加者と、あるべき技術倫理の姿について検討を深めてまいりました。さらに、2007 年度には、「研究発表・投稿および研究に関する倫理」を作成するとともに公開しました。

この間、JABEE の浸透とあいまって、各教育機関等における技術倫理教育は一層浸透していると考えられます。そこで、本協議会では、設置から 5 年を経過したのを機に、工学・技術に係る教育を実施している高等教育機関に全国規模でアンケートを実施し、技術倫理教育の現状把握のための基礎的なデータ収集いたしました。

〔概要〕

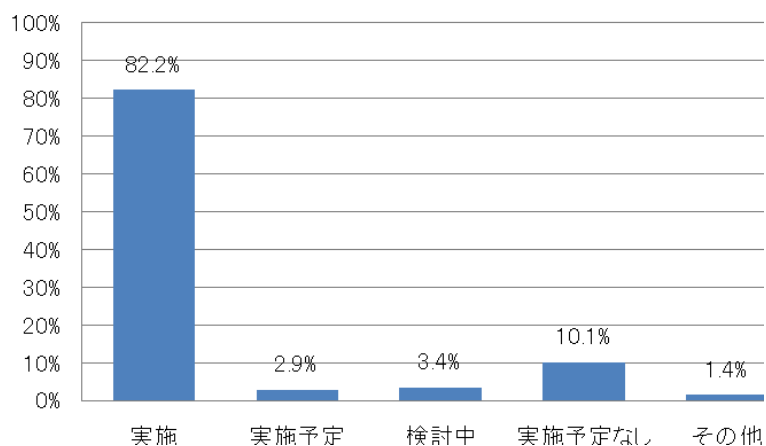
第 1 次	回答受付開始：平成 21 年 5 月 1 日	回答受付終了：平成 21 年 6 月 30 日	回答数：170 件
第 2 次	回答受付開始：平成 21 年 7 月 1 日	回答受付終了：平成 21 年 9 月 30 日	回答数：38 件 総数 208 件



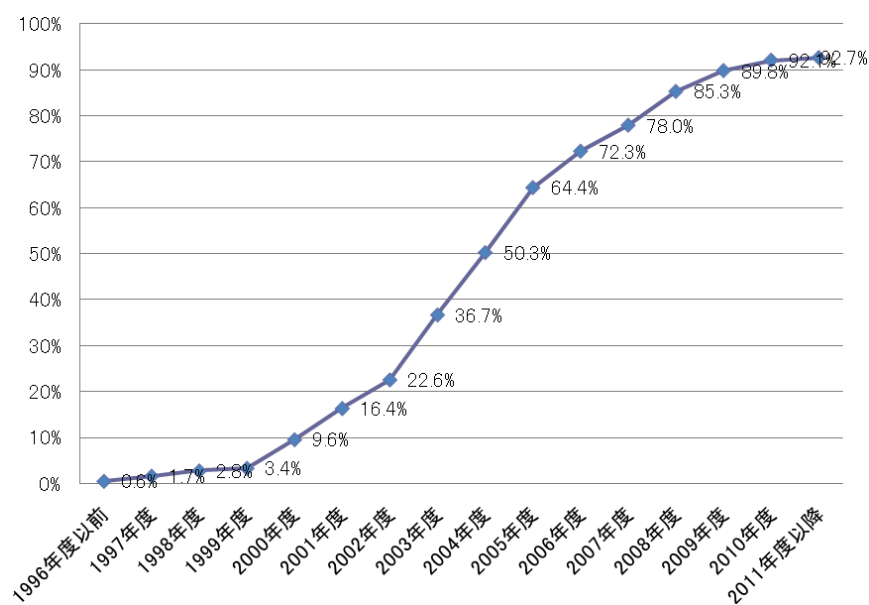
〔アンケートに関するお問合せ先〕 東京都市大学工学部都市工学科教授 皆川 勝

電話 03-5707-2226 メール minamasa@tcu.ac.jp

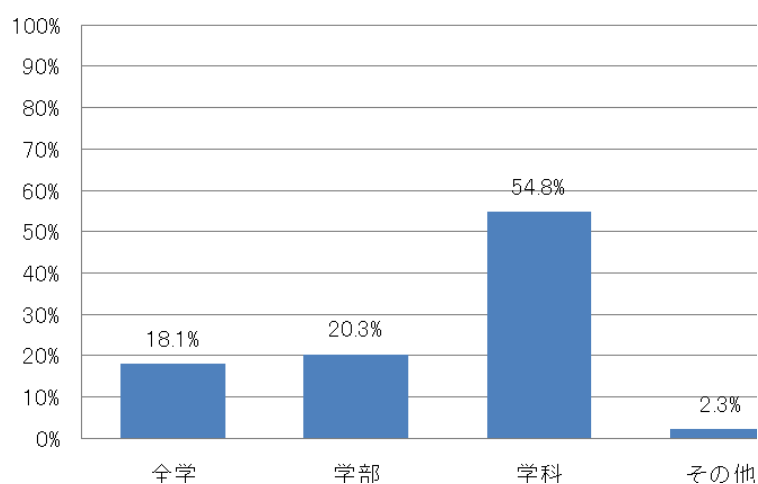
質問 1-1 貴学科では、学生に対する技術倫理・技術者倫理・職業倫理・研究倫理等に関する教育（以後、倫理教育という。）を実施されていますか。



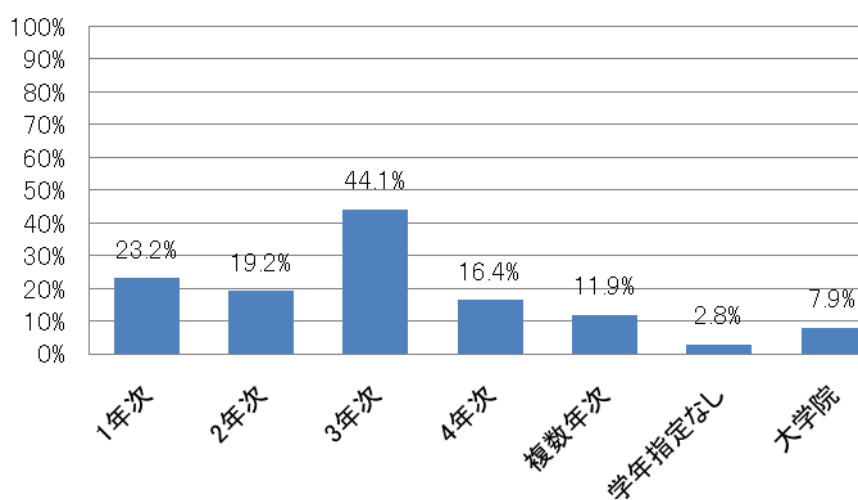
質問 1-1-1 実施している場合、または実施予定の場合、倫理教育科目（以後、科目という。）の開始年度を選択してください。（累積で表示）



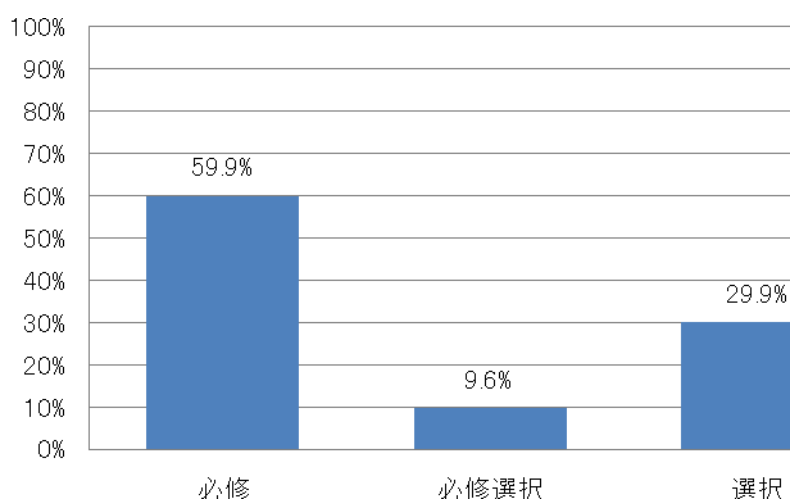
質問 1-1-2 実施している場合、または実施予定の場合、科目の位置付けを選択してください。



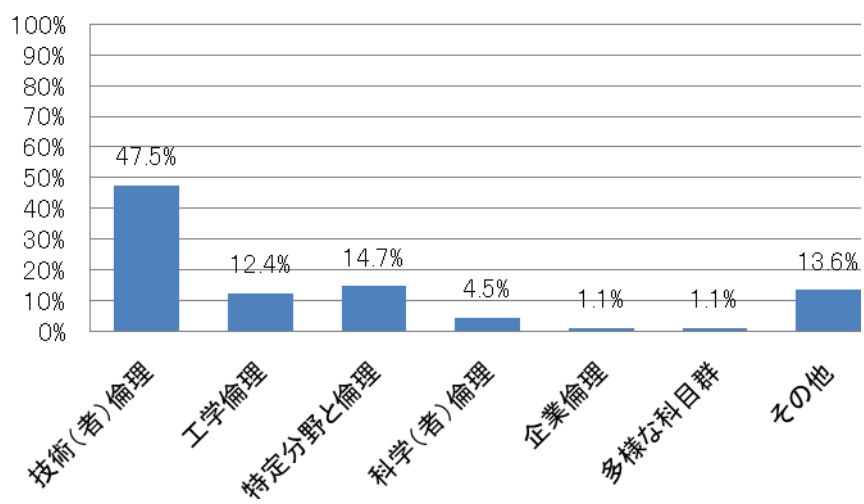
質問 1-1-3 実施している場合、または実施を予定している場合、科目の開講年次を選択してください(複数回答可)。



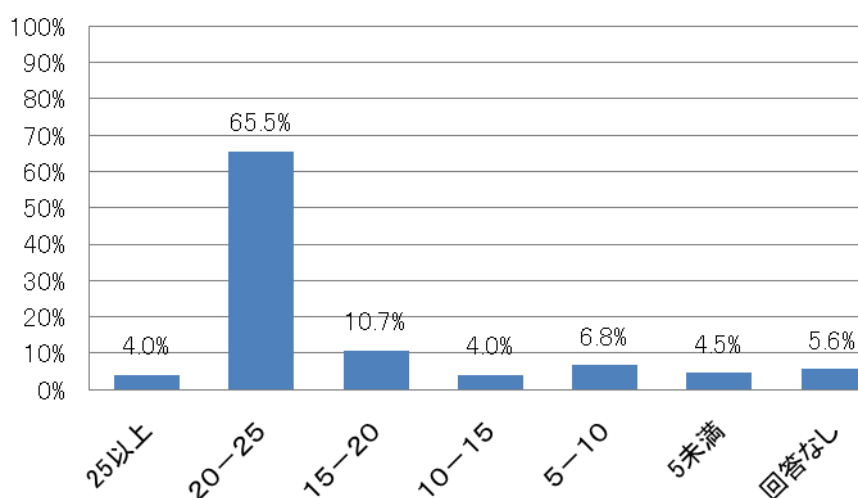
質問 1-1-4 実施している場合、または実施を予定している場合、必修・選択の別を選択してください。



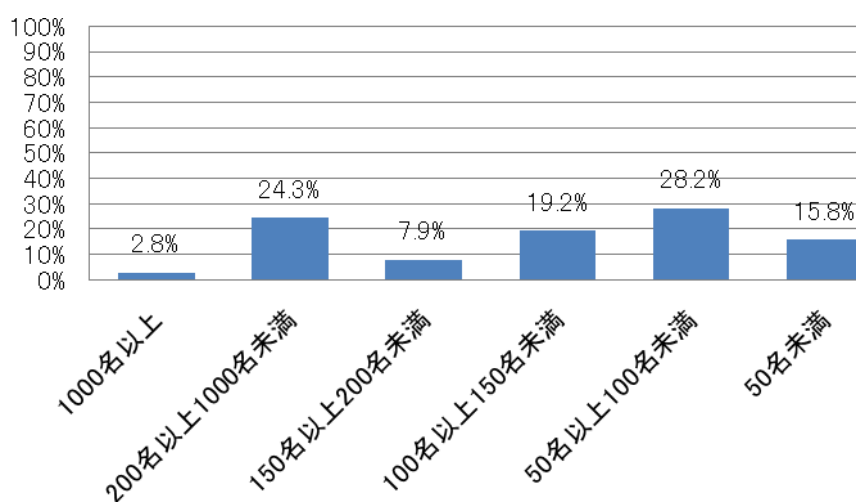
質問 1-1-5 実施している場合、または実施を予定している場合、科目名を記入してください。未定の場合には「未定」とご記入ください。



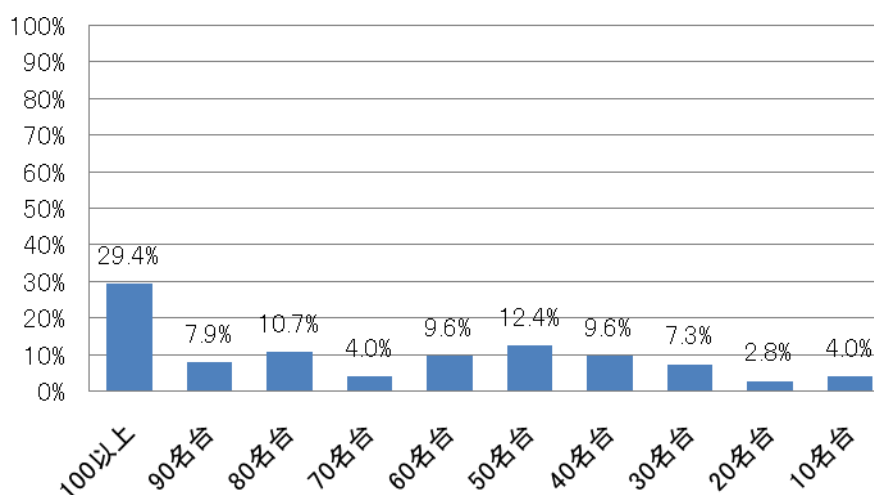
質問 1-1-6 実施している場合、または実施を予定している場合、授業時間をご記入ください。未定の場合には「未定」とご記入ください。



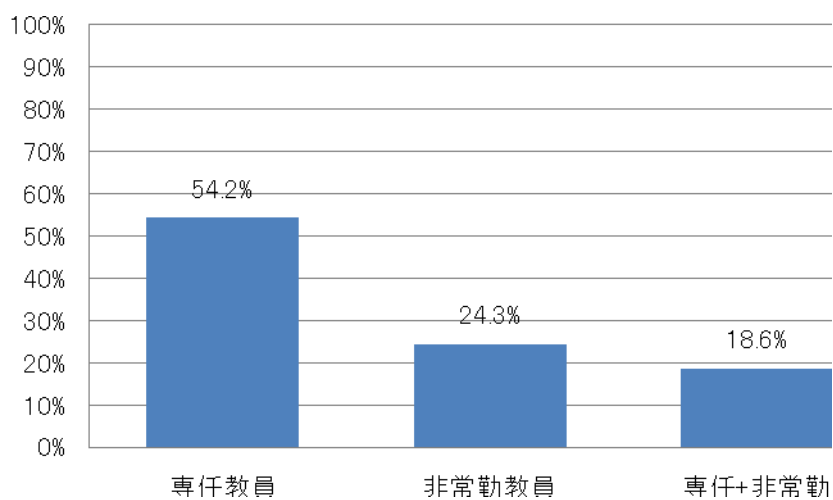
質問 1-1-7 実施している場合、または実施を予定している場合、全履修者概数を選択してください。



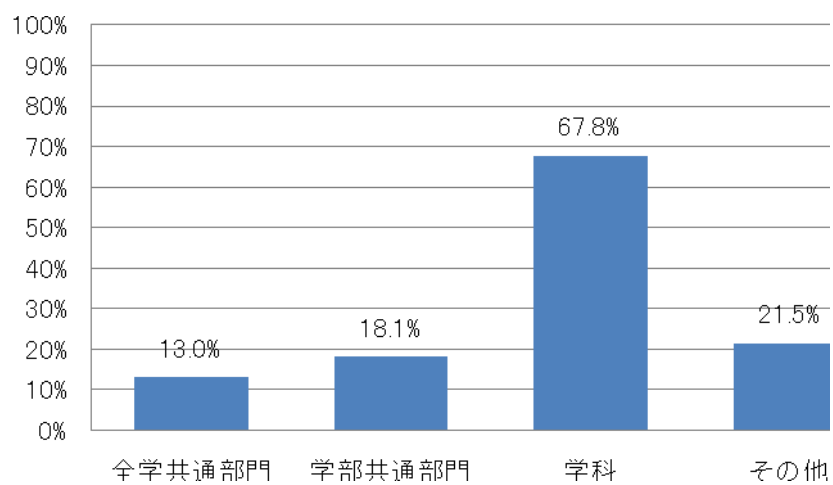
質問 1-1-8 実施している場合、または実施を予定している場合、1クラスの学生人数を選択してください。



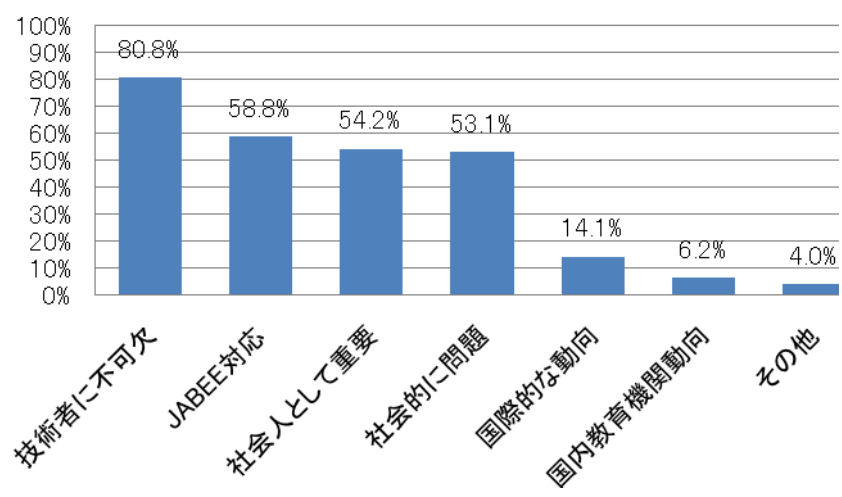
質問 1-1-9 実施している場合、または実施を予定している場合、科目担当者の勤務形態を選択してください（複数回答可）。



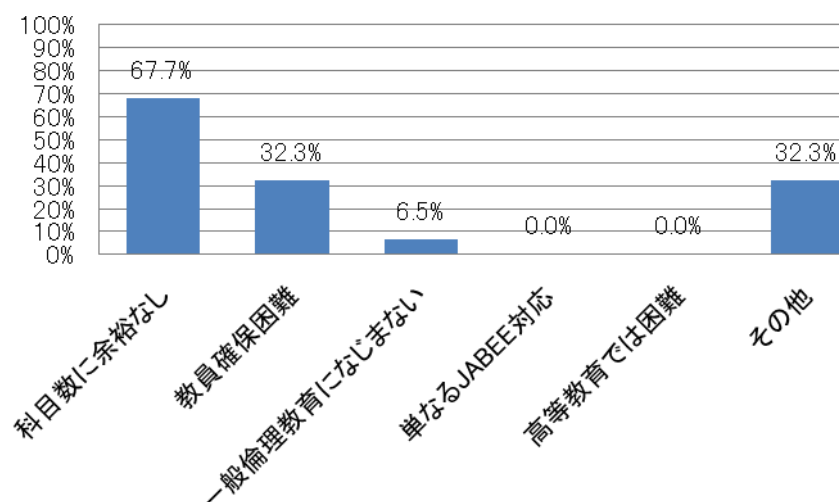
質問 1-1-10 実施している場合、または実施を予定している場合、科目担当者の所属を選択してください（複数回答可）。



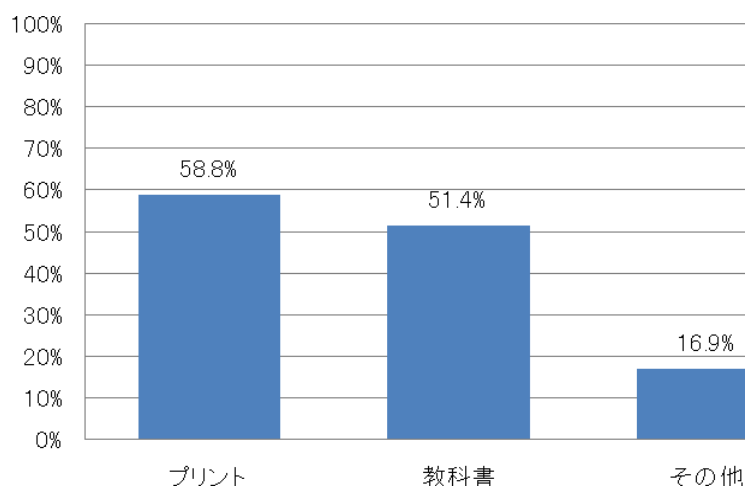
質問 1-2 実施している場合、または実施を予定している場合、開講の理由を選択してください（複数回答可）。



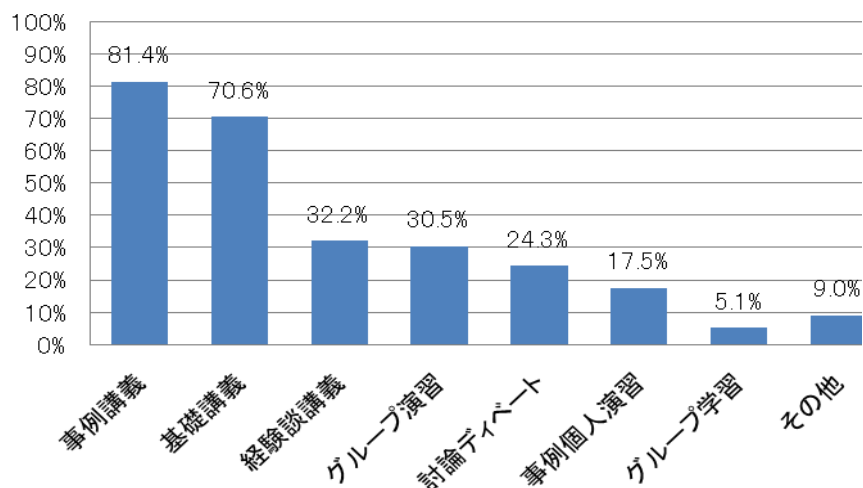
質問 1-3 開講していない場合、その理由を選択して下さい（複数回答可）。



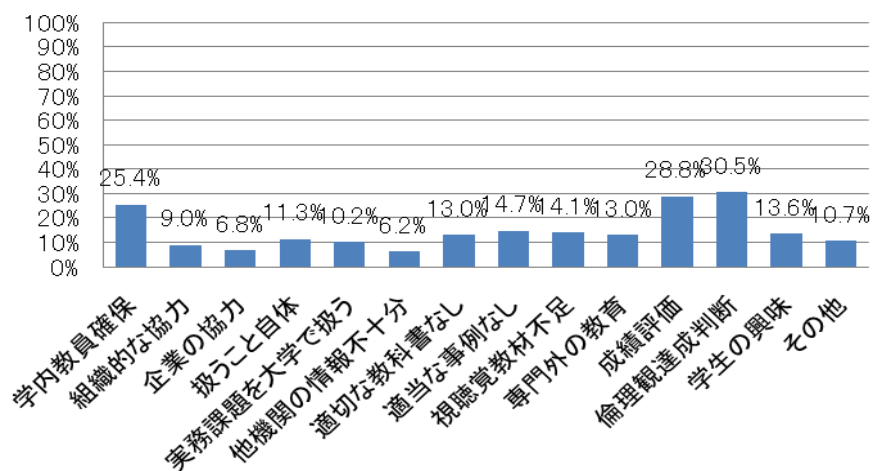
質問 3 講義テキストについてお尋ねします。当てはまるものを選択してください（複数回答可）。



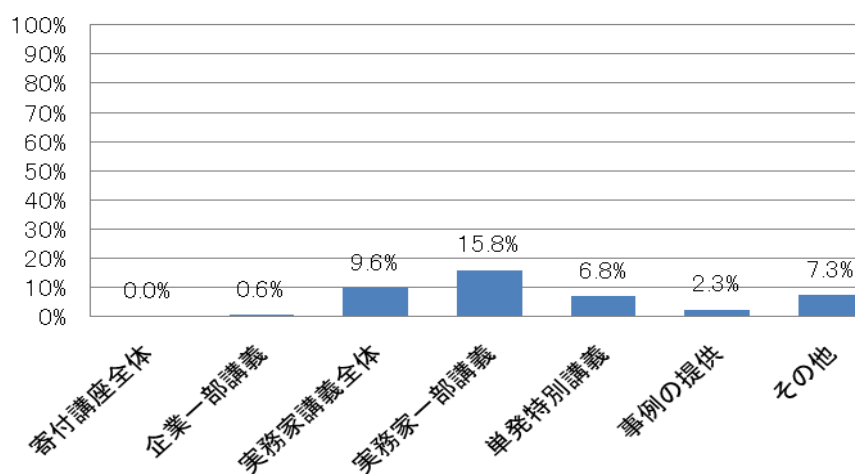
質問 4 授業において特に重点を置いている内容を選択してください（複数回答可）。



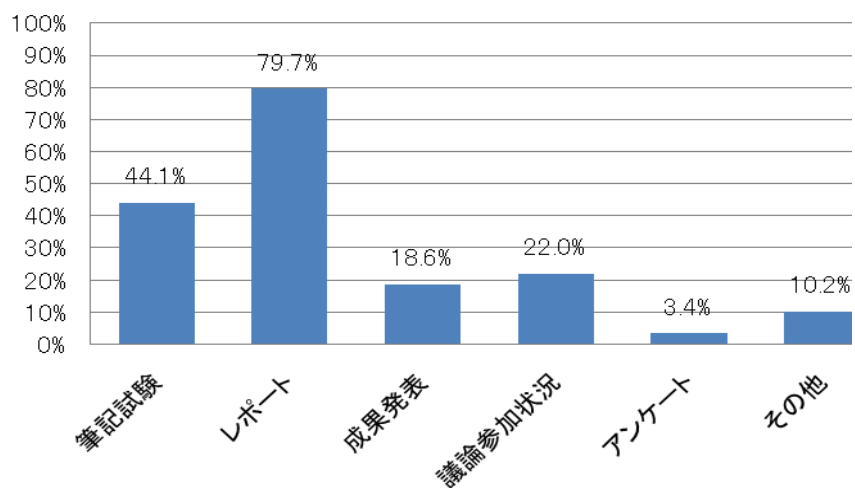
質問 5 課題となっていることはありますか。適当なものを選択してください（複数回答可）。:



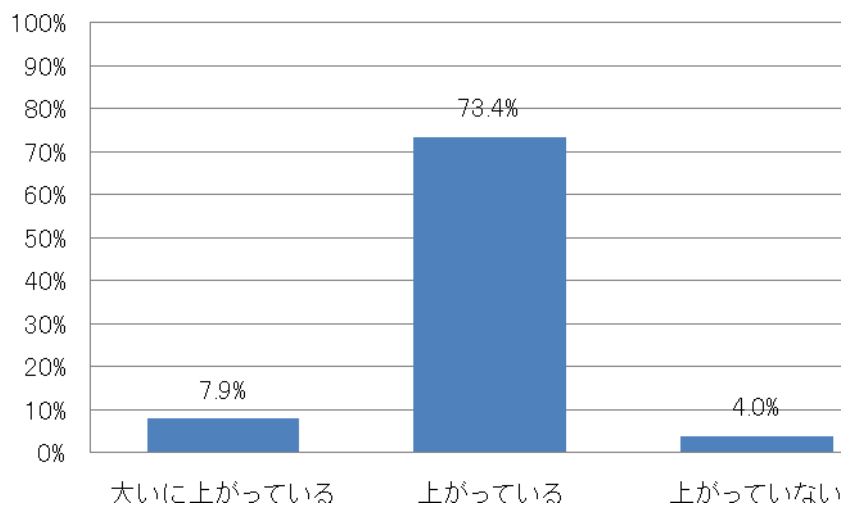
質問 6 企業あるいは実務家の協力を仰いでいる場合、適当なものを選択してください（複数回答可）。



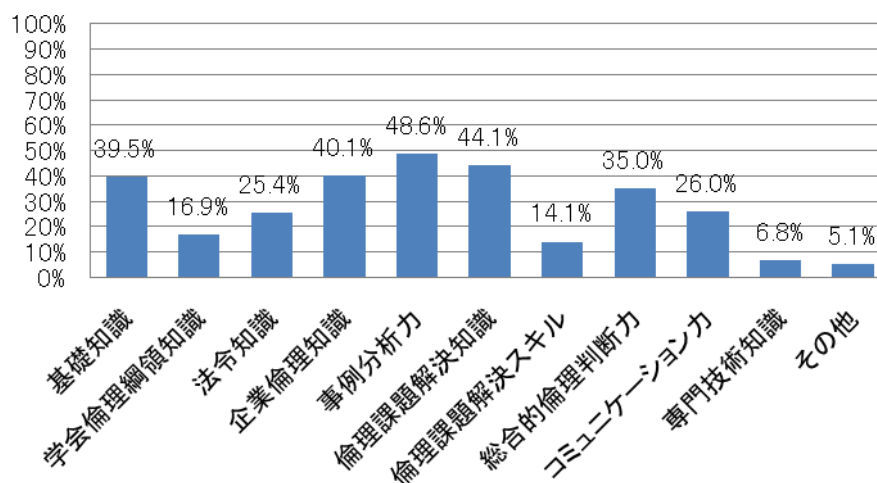
質問 7 成績評価の方法について、適当なものを選択してください（複数回答可）。



質問 8 教育成果は上がっていますか。適当なものを選択してください。



質問 9 教育成果の内容を以下から選択してください（複数回答可）。



別紙 1：技術倫理教育アンケート回答における自由記述(教材、教育成果を除く)

別紙 2：技術倫理教育において使用されている教科書・教材

別紙 3：技術倫理教育における成果の具体的内容

以 上

別紙1：技術倫理教育アンケート回答における自由記述(教材、教育成果を除く)

質問1-2 開講の理由に関するその他の回答

高校教職科目「情報」のための必修科目

主目的は社会の安全・安心に貢献する人材を育てることであり、特に、研究における安全を実現することがそのOJTとなる。

MOT教育に必須である。

改正建築士法に基づく建築士試験の実務経験要件のインターンシップ関連科目として導入した。

研究倫理を高めるため。

質問1-3 開講していない理由に関するその他の回答

カリキュラムの変更が進んでいない。

卒業研究の中で、技術者倫理に関するレポートを提出することで対応している。

各講義の中で触れている。

情報系授業の中で実施しており、特定の科目を設置していないが、深い内容ではない。

研究室でマンツーマンの教育を実施していることから、倫理面の教育もその中で出来ている。

カリキュラムの制約が極めて厳しい。

社会人修士・博士のプログラムで、大半の学生は土木工学専攻修了者であり、その段階で教育されていることを期待している。

文理融合学部であり、必ずしも技術者の養成を目的としているわけではない。

理・工融合による広範な教育研究分野のため、技術者倫理という科目はありませんが、平素より、地球と人類のより良い共存を目指すことの自覚等を教育目標として設定しており、技術者倫理に係る啓発・教育は必要に応じて個々の授業の中で適宜なされています。

そもそも、教員に倫理観がない。

質問4 授業において特に重点を置いている内容に関する自由記述

研究室単位で相互安全巡視を行わせ、訪問先の良い点を3つ以上、授業で報告させ、更に、その報告を踏まえて、自研究室の不備を改善した結果を授業で報告させる「安全チェック演習」を行っている。

学生自身の「考える力」を涵養するため、レポート提出と添削を重視している。

様々な立場での実践者を招聘して、その立場での職能論を講義してもらう。

講義内容に関連した作文事例（アメリカで出版された教科書の訳本から入手）を毎回紹介し、講義の後半20～30分で、意見や感想を書かせる。

JST Web ラーニングプラザの技術者倫理に係るコンテンツの活用している。

ディスカッショントピックスとしての事例のレポートのまとめと解説（討論やディベートをしたいが、表面的な発言や無発言になることが多いため）。技術士の適正試験問題使用。

質問6 企業あるいは実務家の協力を仰ぐ方法に関する自由記述

毎年15社の企業にお願いし、100分×15回の講演を行っている。従って、単発講演×15回で成り立っている。日本技術士会より非常勤講師（官民）を派遣してもらっている。

科目担当者は、企業勤務経験（34年間）があり、事例、その他の情報を多く所有している。

協力の必要がない。

寄付講座の専任教員に協力を仰いでいる。15コマのうち10コマ担当してもらい、残りを当該学科の教員が演習の形で実施している。

専門コンサルタントを非常勤講師として迎え、講義全体をお願いしている。

質問7 成績評価の方法に関する自由記述

毎回、小レポートを提出

技術者倫理の場合、ミニツツペーパーを毎回配布。クイズを1題出題。

シラバスによれば授業中に提出される論述により評価をしている。具体的には、講義前半は正しく内容を理解しているか。中盤は論理的な思考が出来るか、そして後半は論述から倫理的人格が感じられるかによって評価される。

質問9 教育成果の内容に関するその他の自由記述

安全・安心は一部の専門家に任せるものではなく、専門を学んだ者全てが、自ら実践することによって実現できる、という意識が専攻全体に浸透した。

日常生活における問題解決力（問題の発見能力、分析力、判定力、判断力、対応能力、コミュニケーション能力、議論能力等）

正直であれ、という原則がわかってきた。

技術者倫理教育の成果を判断できる材料がない。

授業内では成果はそう見えないのではないか。あくまでも将来に答えが出るものと感じている。

別紙2：技術倫理教育において使用されている教科書・教材（複数採用のある者のみ）

- 齊藤了文，坂下浩司著，「はじめての工学倫理」 昭和堂(16件)
- 杉本泰治・高城重厚 著、技術者の倫理 入門、丸善(12件)
- 中村昌允 事故から学ぶ技術者倫理 工業調査会(7件)
- 松本純也；基礎からの技術者倫理，電気学会；オーム社(3件)
- 日本建築学会編「建築倫理用教材」丸善、2003(3件) ”
- 藤本温，他：技術者倫理の世界，森北出版(3件)
- 島本進、工学/技術者の倫理、産業図書(2件)
- 杉本泰治、高城重厚著、技術者の倫理、丸善(3件)
- 金原 監修，神田 他 著，「エンジニアのための哲学・倫理」，実教出版(2件)
- 林真理・澤健二・小野幸子他：技術者の倫理、コロナ社、2006（2件）
- 堀田源治：工学倫理、工学図書、2006（2件）
- 熊谷浩二・高橋康造編：技術者の倫理—循環型社会に向けた技術者の責務と責任、技報堂出版（2件）

別紙3：技術倫理教育における成果の具体的内容

基本知識	<ul style="list-style-type: none"> 倫理に関する基本的な知識を教育することができた。 漠然とした「行ってはいけないこと」が、具体的に答えられるようになった。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 大学では得られない社会、企業の各種事例研究を通じて、技術者としての使命・責任・倫理観を身につけ、正しい技術の発展と社会貢献を進めるための基本的な概念と知識を習得できる。 卒研配属されたときに、倫理の問題の存在を知っている学生が増えた。 少なくとも、入門としての知識部分はテスト等の計測により確認。これ以外の「理解の度合い（深さ）」、「将来の実践の可能性」については現行の評価法ではうまく計測できておらず不明。 基本的な知識は修得している。 学生の技術者の倫理に関する理解が深まっている。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 1か月前まで高校生であって、「技術者倫理」の存在自体を知らなかった学生が知るようになり、知識、意識ともに向上している。 具体的な行動に結びつくかは不明であるが、少なくとも技術者は公衆の安全を第一に考えて行動しなければならないということが、ほとんどの学生に理解されている。 技術者倫理の必要性については理解が進んでいる。 レポートの内容から判断して、技術者としての倫理的責任をおおむね理解できている。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 学生が企業などの技術者から直接話を聞くことで、卒業後の実社会において、技術者として倫理的行動が以下に重要であるか理解している。 技術者が社会に対して負う責任が理解できた。 	
	倫理観向上	<ul style="list-style-type: none"> 技術者の責務や倫理的な問題の解決方法、公益通報など基本的な知識を学生が身に付けられている。また、グループ討議とディベートによるグループ活動により、少なくとも社会に存在する倫理的な問題の構造について学生は理解できている。また、グループ活動を通じてステイクホルダーとの関係を考慮しながら技術者として自分はどうに行動すべきなのかを考える機会を学生へ提供しているが、これは技術者としての倫理観の向上につながっている。 他者を思いやる態度が身に付いた。 学内での不正行為、犯罪が大幅に少なくなってきた。 院生の研究倫理に関する自主性が増大してきた。
		<ul style="list-style-type: none"> 倫理教育自体が高校までにNULLの状態だから、そういった意識を持てるようにはなる。ただし、倫理観が向上したかどうか…。 倫理観や法的意識が向上し、通信販売やTVショッピング等について、不正競争防止法等の違反がないかといった質問が受講生から出るようになった。 倫理に関して自ら考えるマインドがはぐくまれている。 毎時間のレポートに、様々な意見や感想が提出され、専門家としての意識形成が見られる。 毎回の講義終了前に行うミニレポート（演習）内容からは、まじめに考えようとしていることが読み取れるが、本当に身についたかどうかは判断できない。 授業評価アンケートなどで、倫理意識や興味が高まった学生が多く観られるようになった。 授業アンケート等で学生の意識向上が見られる。 全研究室で2名以上の学生安全委員を選出してもらっているが、現在、その約2/3は自ら立候補した者で占められている。統計はとっていないが、研究における事故・ヒヤリハットが減った。 技術者としての倫理的観点から、専門科目の内容について考えるようになった。 技術者としての倫理の意識を持たせることができる。具体的な事例を知る。
		<ul style="list-style-type: none"> 技術を用いることにより、一方で豊かな社会を創造して人類の幸福に貢献し、他方で公衆や環境への危害を最小限にいとめるために、専門家としての一人の技術者に何をすることができるのか等の倫理は、身近な学生から感じ取れる。 学生の提出したレポートの多くが技術者倫理の大切さを記している。 学生の興味、関心が薄すぎる。 レポートなどを見る限り技術倫理に関する意識は向上していると見られる。 学生が工学倫理の広がりや深さに気付くようになる。 ニュースで流れる事故・事件・不祥事について、学生が多少なりとも倫理的に見る習慣がついたと思う。 グループでの事例討論を行うことにより、学生の関心が深まっている。 10%程度の人は強い関心を示し、きちんとしたレポートを書いている。 技術者の倫理に対して学生が興味を持ったことがレポートから伺える。 具体的なことはあげられませんが、個人的な対話を行うと受講者の意識があがったような感触を受けます。
		<ul style="list-style-type: none"> 倫理教育自体が高校までにNULLの状態だから、そういった意識を持てるようにはなる。ただし、倫理観が向上したかどうか…。 倫理観や法的意識が向上し、通信販売やTVショッピング等について、不正競争防止法等の違反がないかといった質問が受講生から出るようになった。 倫理に関して自ら考えるマインドがはぐくまれている。 毎時間のレポートに、様々な意見や感想が提出され、専門家としての意識形成が見られる。 毎回の講義終了前に行うミニレポート（演習）内容からは、まじめに考えようとしていることが読み取れるが、本当に身についたかどうかは判断できない。 授業評価アンケートなどで、倫理意識や興味が高まった学生が多く観られるようになった。 授業アンケート等で学生の意識向上が見られる。 全研究室で2名以上の学生安全委員を選出してもらっているが、現在、その約2/3は自ら立候補した者で占められている。統計はとっていないが、研究における事故・ヒヤリハットが減った。 技術者としての倫理的観点から、専門科目の内容について考えるようになった。 技術者としての倫理の意識を持たせることができる。具体的な事例を知る。 技術を用いることにより、一方で豊かな社会を創造して人類の幸福に貢献し、他方で公衆や環境への危害を最小限にいとめるために、専門家としての一人の技術者に何をすることができるのか等の倫理は、身近な学生から感じ取れる。 学生の提出したレポートの多くが技術者倫理の大切さを記している。 学生の興味、関心が薄すぎる。 レポートなどを見る限り技術倫理に関する意識は向上していると見られる。 学生が工学倫理の広がりや深さに気付くようになる。 ニュースで流れる事故・事件・不祥事について、学生が多少なりとも倫理的に見る習慣がついたと思う。 グループでの事例討論を行うことにより、学生の関心が深まっている。 10%程度の人は強い関心を示し、きちんとしたレポートを書いている。 技術者の倫理に対して学生が興味を持ったことがレポートから伺える。 具体的なことはあげられませんが、個人的な対話を行うと受講者の意識があがったような感触を受けます。
		<ul style="list-style-type: none"> 技術者としての倫理的観点から、専門科目の内容について考えるようになった。 技術者としての倫理の意識を持たせることができる。具体的な事例を知る。 技術を用いることにより、一方で豊かな社会を創造して人類の幸福に貢献し、他方で公衆や環境への危害を最小限にいとめるために、専門家としての一人の技術者に何をすることができるのか等の倫理は、身近な学生から感じ取れる。 学生の提出したレポートの多くが技術者倫理の大切さを記している。 学生の興味、関心が薄すぎる。 レポートなどを見る限り技術倫理に関する意識は向上していると見られる。 学生が工学倫理の広がりや深さに気付くようになる。 ニュースで流れる事故・事件・不祥事について、学生が多少なりとも倫理的に見る習慣がついたと思う。 グループでの事例討論を行うことにより、学生の関心が深まっている。 10%程度の人は強い関心を示し、きちんとしたレポートを書いている。 技術者の倫理に対して学生が興味を持ったことがレポートから伺える。 具体的なことはあげられませんが、個人的な対話を行うと受講者の意識があがったような感触を受けます。
	<ul style="list-style-type: none"> 技術者としての倫理的観点から、専門科目の内容について考えるようになった。 技術者としての倫理の意識を持たせることができる。具体的な事例を知る。 技術を用いることにより、一方で豊かな社会を創造して人類の幸福に貢献し、他方で公衆や環境への危害を最小限にいとめるために、専門家としての一人の技術者に何をすることができるのか等の倫理は、身近な学生から感じ取れる。 学生の提出したレポートの多くが技術者倫理の大切さを記している。 学生の興味、関心が薄すぎる。 レポートなどを見る限り技術倫理に関する意識は向上していると見られる。 学生が工学倫理の広がりや深さに気付くようになる。 ニュースで流れる事故・事件・不祥事について、学生が多少なりとも倫理的に見る習慣がついたと思う。 グループでの事例討論を行うことにより、学生の関心が深まっている。 10%程度の人は強い関心を示し、きちんとしたレポートを書いている。 技術者の倫理に対して学生が興味を持ったことがレポートから伺える。 具体的なことはあげられませんが、個人的な対話を行うと受講者の意識があがったような感触を受けます。 	

思考力	<p>個人と倫理、専門家と倫理、組織と倫理についてレポート提出ならびに翌週に発表討議を実施することにより、自分で思考できる能力の養成に役立っている。</p> <p>技術者が備えておく倫理について、学生が自ら考える。</p> <p>技術者倫理に関わる事例を知り、自らの問題として議論する経験ができること</p> <p>熟慮したことがわかるレポートが提出される。</p>
コミュニケーション力	<p>他の講義科目でも「倫理」というキーワードを使って話ができる。</p> <p>他の科目で、技術者倫理的な話題を話したときに、討論することができる。</p> <p>明確ではないが、自分の意見や感想をきちんと書くようになって来ている。また、自分の判断の基準を伝えるように努めている。</p> <p>グループでスライドを作成し、コミュニケーション能力の向上に役立っている。</p>
専門能力	<p>社会基盤に対する理解が深まり、進路を考える機会となっていることが感じられる。</p> <p>結果としては特別に見えてこないが、設計職能に関しては卒業設計の取り組み等を感じられる。評価されるのは卒業生の行動であろう。</p> <p>オムニバス形式ですすめているので各分野の話題が広く学べる。</p>
目標達成	<p>出席率は高く、シラバスの目標に対し、ほとんどの学生が7割は達成できたと評価している。</p> <p>オムニバス形式なので時系列的な効果は確認できないが、最終レポートで授業内容の習熟度がある程度伺われる。</p> <p>レポート等の報告により、質問9の内容に関する向上が見受けられる。</p> <p>オムニバス形式ですすめているので各分野の話題が広く学べる。</p> <p>結果としては特別に見えてこないが、設計職能に関しては卒業設計の取り組み等を感じられる。評価されるのは卒業生の行動であろう。</p> <p>毎回の小レポートの記載内容が向上（5件）</p> <p>グループ討議、発表に成果が見える</p> <p>講義履修前後の学生の工学倫理、機械安全に対する考え方が大きく変わった。</p>
履修率	<p>履修率が高い。</p> <p>選択ではあるが、毎年学年のほとんどの学生が履修し、単位を取得している。</p> <p>受講者が多く学生の関心が高い。</p>
継続困難	<p>試験は良いが、1年もすると忘れている。</p>
授業評価	<p>授業評価において学生より好意的なコメントを多く得ている。</p> <p>学生の授業評価で高い評価(高得点)を得ている。</p> <p>学期末の学生による授業評価などで、授業内容をプラスに評価する声が多い。</p> <p>学生による授業評価は決して低くないので、成果は上がっていると思いたい。</p>
技術士試験	<p>技術士1次試験を受験した学生からは、適性科目の試験はよくできたとの声を得ています。</p> <p>技術士一次試験の倫理に関する模擬試験で7割以上の成績を取っている。</p>
JABEE	<p>JABEEを受審してプログラムが認定される予定である。</p>
評価困難	<p>卒業した履修者に倫理的価値判断能力が身に付いたかを定量的に評価することは不可能です。</p> <p>成績評価だけでなく、授業評価も困難なのでその成果は判定しにくい。本学科では、1年次に「建築論」の中で、技術者のあり方を問いかけ、3年次に「建築生産」の中で、専門的知識を多少身につけた段階で、再度、同様の技術者倫理の授業を行い、レポート等で比較し、その成長の内容を検討しているが、判定は難しい。</p> <p>昨年度からスタートしているため、現時点で判断できない</p> <p>今年度始めたばかりであり、まだ成果の把握は難しい。</p> <p>今年度後期に新設される科目のため、効果を確かめられない</p> <p>今年度から必修授業内に組み込んだため、成果の検証は授業終了後となる。</p> <p>技術者倫理教育の成果を現在のところ判断できる材料を持っていない。今後検討する予定である。</p> <p>倫理教育の「成果」を検討する事自体難しい。その「成果」は、10年後・20年後にできるものかもしれない。</p> <p>適切な選択肢がないので「あがっていない」とした。実態は「わからない」。理解度、浸透度を測る手段がないから上記で「あがっていない」としましたが、正確には「まだ判断できない」と回答させてください。</p> <p>追跡評価を行っていない。</p>

別紙4：技術倫理教育アンケートの回答機関一覧（個人情報是非公開とする）

平成21年11月24日

学協会		機関名	職名	学部等	学科等
応用物理学会	応1	桐蔭横浜大学	教授	工学部	電子情報工学科
化学工学会	化工1	工学院大学	非常勤講師	工学部	応用化学科
化学工学会	化工2	埼玉大学	非常勤講師	工学部	応用化学科
化学工学会	化工3	秋田大学	非常勤講師	鉱山学部	環境物質工学科
化学工学会	化工4	東京工業大学	客員教授	大学院 イノベーションマネジメント研究科	大学院 イノベーションマネジメント研究科
化学工学会	化工5	東京工業大学	客員教授	大学院イノベーションマネジメント研究科	大学院イノベーションマネジメント研究科
化学工学会	化工6	早稲田大学	非常勤講師	大学院理工学研究科	大学院理工学研究科
化学工学会	化工7	東京農工大学	教授	大学院技術経営研究科	大学院技術経営研究科
電気学会	電1	旭川工業高等専門学校	教授	電気情報工学科	電気情報工学科
電気学会	電2	明星大学	学科主任	理工学部	電気電子システム工学科
電気学会	電3	桐蔭横浜大学	教授	工学部	電子情報工学科
電気学会	電4	千葉大学	教授	工学部	電気電子工学科
電気学会	電5	福岡工業大学	准教授	工学部	電気工学科
電気学会	電6	茨城大学	学科長	工学部	電気電子工学科
電気学会	電7	鹿児島大学	教授	工学部	電気電子工学科
電気学会	電8	広島大学	准教授	工学部	第2類
電気学会	電9	兵庫県立大学	教授	工学部	電子情報電気工学科
電気学会	電10	福井大学	教授	工学部	電気・電子工学科
電気学会	電11	中部大学	教授	工学部	電気システム工学科
電気学会	電12	岐阜大学	教授	工学部	人間情報システム工学科
電気学会	電13	石巻専修大学	教授	理工学部	情報電子工学科
電気学会	電14	鹿児島大学	教授	工学部	情報生体システム工学科
電気学会	電15	佐賀大学	講師	理工学部	電気電子工学科
電気学会	電16	北海道工業大学	教授	医療工学部	医療福祉工学科
電気学会	電17	島根大学	教授	総合理工学部	電子制御システム工学科
電気学会	電18	群馬大学	教授	工学部	電気電子工学科
電気学会	電19	明治大学	教授	理工学部	電気電子生命
電気学会	電20	首都大学東京	教授	システムデザイン学部	ヒューマンメカトロニクスシステムコース
電気学会	電21	広島大学	准教授	大学院工学研究科	複雑システム工学専攻
電気学会	電22	早稲田大学	理工学術院教授	理工学術院先進理工学部	電気・情報生命工学科
電子情報通信学会	通1	桐蔭横浜大学	教授	工学部	電子情報工学科
電子情報通信学会	通2	福岡工業大学	准教授	工学部	電気工学科
電子情報通信学会	通3	茨城大学	学科長	工学部	電気電子工学科
電子情報通信学会	通4	鹿児島大学	教授	工学部	電気電子工学科
電子情報通信学会	通5	広島大学	准教授	工学部	第2類
電子情報通信学会	通6	名古屋工業大学	教授	工学部	電気電子工学科
電子情報通信学会	通7	東海大学	教授	工学部	電気電子工学科

電子情報通信学会	通8	茨城大学	教授	工学部	情報工学科
電子情報通信学会	通9	大阪工業大学	学科長	工学部	電気電子システム工学科
電子情報通信学会	通10	名城大学	教授	理工学部	情報工学科
電子情報通信学会	通11	愛知県立大学	教授	情報科学部	情報科学科（旧情報システム学科）
電子情報通信学会	通12	東京工芸大学	教授	工学部	システム電子情報学科
電子情報通信学会	通13	群馬大学	大学院工学研究科 情報工 学専攻長	大学院工学研究科	情報工学専攻
電子情報通信学会	通14	山口大学	教授	工学部	知能情報工学科
電子情報通信学会	通15	千葉大学	教授	工学部	情報画像学科
電子情報通信学会	通16	岐阜大学	准教授	工学部	応用情報学科
電子情報通信学会	通17	神戸大学	平教授（大学における役職 は無いが、工記の専攻長）	工学研究科	情報知能学専攻
電子情報通信学会	通18	秋田大学	教授	工学資源学部	電気電子工学科
電子情報通信学会	通19	芝浦工業大学	教授	工学部	通信工学科
電子情報通信学会	通20	大阪産業大学	教授	工学部	情報システム工学科
電子情報通信学会	通21	広島工業大学	学科主任	工学部	電気・デジタルシステム工学科
電子情報通信学会	通22	九州工業大学	教授	情報工学部	知能情報工学科
電子情報通信学会	通23	大阪市立大学	教授	工学部	情報工学科
電子情報通信学会	通24	信州大学	教授	工学部	情報工学科
電子情報通信学会	通25	東京電機大学	学科長	工学部	電気電子工学科
電子情報通信学会	通26	高知工科大学	附属情報図書館長・教授	工学部	情報システム工学科
電子情報通信学会	通27	電気通信大学	電子工学科長	電気通信学部	電子工学科
電子情報通信学会	通28	長崎大学	教授	工学部	情報システム工学科
電子情報通信学会	通29	金沢大学	教授	工学部	電気電子システム工学科
電子情報通信学会	通30	関西大学	先端情報電気工学科 教育 主任	システム理工学部	電気電子情報工学科
電子情報通信学会	通31	九州工業大学	教授	情報工学部	システム創成情報工学科
電子情報通信学会	通32	豊田工業大学	非常勤講師	工学部	先端工学基礎学科
電子情報通信学会	通33	福岡工業大学	教授	情報工学部	情報通信工学科
電子情報通信学会	通34	琉球大学	教授	工学部	電気電子工学科
電子情報通信学会	通35	福岡大学	教授	工学部	電子情報工学科
電子情報通信学会	通36	北海道情報大学	教授	経営情報学部	システム情報学科
電子情報通信学会	通37	三重大学	教授	工学部	電気電子工学科
電子情報通信学会	通38	宮崎大学	教授	工学部	電気電子工学科
電子情報通信学会	通39	大阪工業大学	教授	情報科学部	コンピュータ科学科
電子情報通信学会	通40	電気通信大学	准教授	電気通信学部	情報工学科
電子情報通信学会	通41	徳島大学	教授	大学院ソシオテクノサイエンス研究部	光応用工学科
電子情報通信学会	通42	中部大学	教授	工学部	情報工学科
電子情報通信学会	通43	東京理科大学	教授	理工学部	電気電子情報工学科
電子情報通信学会	通44	福岡工業大学	学科長	工学部	電子情報工学科
電子情報通信学会	通45	福山大学	学科主任	工学部	情報工学科
電子情報通信学会	通46	湘南工科大学	教授	工学部	情報工学科
電子情報通信学会	通47	千葉工業大学	教授	工学部	電気電子情報工学科

電子情報通信学会	通48	芝浦工業大学	教授	工学部	情報工学科
電子情報通信学会	通49	大阪電気通信大学	教授	情報通信工学部	通信工学科
電子情報通信学会	通50	大阪電気通信大学	教授	情報通信工学部	通信工学科
電子情報通信学会	通51	甲南大学	学部長	知能情報学部	知能情報学科
電子情報通信学会	通52	近畿大学	近畿大学理工学部情報学科	理工学部	情報学科
電子情報通信学会	通53	湘南工科大学	電気電子工学科長	工学部	電気電子工学科
電子情報通信学会	通54	明治大学	学科長	理工学部	情報科学科
電子情報通信学会	通55	愛知工業大学	教授	情報科学部	情報科学科
電子情報通信学会	通56	富山県立大学	教授	工学部	情報システム工学科
電子情報通信学会	通57	近畿大学	教授	工学部	電子情報工学科
電子情報通信学会	通58	日本大学	教授	理工学部	電子情報工学科
電子情報通信学会	通59	岡山理科大学	教授	工学部	情報工学科
電子情報通信学会	通60	崇城大学	教授	情報学部	情報学科
電子情報通信学会	通61	近畿大学	教授	理工学部	電気電子工学科
電子情報通信学会	通62	神奈川大学	助教	工学部	情報システム創成学科
電子情報通信学会	通63	金沢工業大学	教授	情報学部	情報工学科
電子情報通信学会	通64	金沢工業大学大学院	教授 専攻主任	工学研究科	情報工学専攻
電子情報通信学会	通65	秋田県立大学	学科長	システム科学技術学部	電子情報システム学科
電子情報通信学会	通66	静岡大学	准教授	イノベーション共同研究センター	(講義担当として) 工学部電気電子工学科
電子情報通信学会	通67	宇都宮大学	教授	工学部	情報工学科
土木学会	土1	神戸大学	教授	工学研究科	市民工学専攻
土木学会	土2	鳥取大学	准教授	工学部	土木工学科
土木学会	土3	国土館大学	教授、学系長	理工学部	理工学科 都市ランドスケープ学系
土木学会	土4	東京工業大学	准教授	工学部	国際開発工学
土木学会	土5	東京都市大学 (旧武蔵工業大学)	主任教授	工学部	都市工学科
土木学会	土6	筑波大学	大学院システム情報工学研究科 准教授	理工学群	社会工学類
土木学会	土7	東京大学	教授・学科長	工学部	システム創成学科
土木学会	土8	岡山大学	教授	環境理工学部	環境管理工学科
土木学会	土9	佐賀大学	准教授	理工学部	都市工学科
土木学会	土10	名城大学	教授	都市情報学部	都市情報学科
土木学会	土11	日本大学	教授	生産工学部	環境安全工学科
土木学会	土12	北海学園大学	教授	工学部	社会環境工学科
土木学会	土13	大阪大学	教授	工学部	地球総合工学科 (社会基盤工学科目)
土木学会	土14	愛媛大学	教授	工学部	環境建設工学科
土木学会	土15	千葉大学	教授	工学部	都市環境システム学科
土木学会	土16	福山大学	教授	工学部	建築・建設学科
土木学会	土17	鹿児島工業高等専門学校専攻科	准教授	該当なし	土木工学科・専攻科土木工学専攻
土木学会	土18	宮崎大学	准教授	工学部	土木環境工学科
土木学会	土19	福井工業高等専門学校	教授	(工学部) 高専に学部はありません	環境都市工学科
土木学会	土20	東京理科大学	教授	理工学部	土木工学科

土木学会	土21	東京理科大学	教授	理工学部	土木工学科
土木学会	土22	東京理科大学	教授	理工学部	土木工学科
土木学会	土23	日本大学	専任講師	理工学部	土木工学科
土木学会	土24	東京農工大学	講師	農学部	地域生態システム学科
土木学会	土25	東京工業大学	教授	大学院理工学研究科	土木工学専攻
土木学会	土26	日本文理大学	准教授	工学部	建築学科
土木学会	土27	八戸工業大学	教授・学科長	工学部	土木建築工学科
土木学会	土28	函館工業高等専門学校	教授	なし	環境都市工学科
土木学会	土29	北見工業大学	教授	工学部	社会環境工学科
土木学会	土30	筑波大学大学院	講師	システム情報工学研究科	リスク工学専攻
土木学会	土31	東北学院大学	教授	工学部	環境建設工学科
土木学会	土32	山梨大学	教授	工学部	土木環境工学科
土木学会	土33	政策研究大学院大学	教授	政策研究科	開発政策プログラム
土木学会	土34	大阪工業大学	教授	工学部	都市デザイン工学科
土木学会	土35	秋田大学	学科長	工学資源学部	土木環境工学科
土木学会	土36	苫小牧工業高等専門学校	学科長	工学部	環境都市工学科
土木学会	土37	弘前大学	教授	理工学部	地球環境学科
土木学会	土38	早稲田大学	教授	創造理工学部	社会環境工学科
土木学会	土39	拓殖大学	電子システム工学科長	工学部	電子システム工学科
土木学会	土40	室蘭工業大学	教授	工学部	建築社会基盤系学科
土木学会	土41	名城大学	教授	理工学部	建設システム工学科
土木学会	土42	北海道工業大学	教授	工学部	社会基盤工学科
土木学会	土43	舞鶴工業高等専門学校	教授	専攻科・建設・生産システム工学専攻	建設システム工学科
土木学会	土44	鳥取大学	教授	大学院工学研究科	社会基盤工学専攻社会経営工学講座
土木学会	土45	京都大学大学院	専攻長（教授）	工学研究科	都市環境工学専攻
日本化学会	化1	岡山理科大学	教員	理学部	臨床生命科学科
日本化学会	化2	筑波大学	教授・化学専攻長	大学院数理物質科学研究科	化学専攻
日本化学会	化3	東京工業大学	教授	工学部	化学工学科
日本化学会	化4	東北大学	教授	大学院理学研究科	化学専攻
日本化学会	化5	名古屋大学	教授	大学院理学研究科	物質理学専攻（化学系）
日本化学会	化6	横浜国立大学	准教授	工学部	物質工学科
日本機械学会	機1	島根大学	教授	総合理工学部	電子制御システム工学科
日本機械学会	機2	近畿大学	教授	生物理工学部	知能システム工学科
日本機械学会	機3	近畿大学	准教授	理工学部	機械工学科
日本機械学会	機4	広島国際学院大学	教授	工学部	機械工学科
日本機械学会	機5	東京大学	教授	大学院工学系研究科	機械工学専攻
日本機械学会	機6	大阪大学	教授	工学研究科	機械工学専攻
日本機械学会	機7	慶應義塾大学	准教授	理工学部	システムデザイン工学科
日本機械学会	機8	国土館大学	教授 学系主任	理工学部	機械工学系
日本機械学会	機9	富山大学	教授	工学部	機械知能システム工学科

日本機械学会	機10	東京農工大学	教授	大学院	技術経営研究科（工学府機械システム工学専攻兼 <small>機</small>
日本機械学会	機11	八戸工業大学	教授	工学部	機械情報技術学科
日本技術士会	技1	旭川工業高等専門学校	教授	電気情報工学科	電気情報工学科
日本建築学会	建1	八戸工業大学	教授・学科長	工学部	土木建築工学科
日本建築学会	建2	舞鶴工業高等専門学校	教授	専攻科・建設・生産システム工学専攻	建設システム工学科
日本建築学会	建3	日本女子大学	准教授	家政学部	住居学科
日本建築学会	建4	日本大学	大学院専攻主任教授+建築学科主任教授	工学部	建築学科
日本建築学会	建5	大阪大学大学院	教授	工学研究科	地球総合工学専攻
日本建築学会	建6	東北工業大学	学科長	工学部	建築学科
日本建築学会	建7	岡山理科大学	建築学科学科長	総合情報学部	建築学科
日本建築学会	建8	鎌倉女子大学	教授	家政学部	家政保健学科
日本建築学会	建9	徳山工業高等専門学校	教授	なし	土木建築工学科
日本建築学会	建10	新潟工科大学	学科長	工学部	建築学科
日本建築学会	建11	香川大学	教授	教育学部	人間発達環境課程
日本建築学会	建12	宇都宮大学	教授	工学研究科	地球環境デザイン学専攻
日本建築学会	建13	京都工芸繊維大学	教授	工芸科学部	工芸科学研究科
日本建築学会	建14	東京工業大学	教授	工学部	建築学科
日本建築学会	建15	名古屋大学	教授	大学院環境学研究科ただし、学生は工学部に所属	都市環境学専攻、ただし、学生は社会環境工学科
日本建築学会	建16	安田女子大学	教授	家政学部	生活デザイン学科
日本建築学会	建17	呉工業高等専門学校	教授	無し	建築学分野
日本建築学会	建18	近畿大学	教授 大学院システム工学研究科研究科長	工学部	建築学科
日本建築学会	建19	室蘭工業大学	教授	工学部	建築社会基盤系学科
日本建築学会	建20	近畿大学	理工学部建築学科 学科長	理工学部	建築学科
日本建築学会	建21	摂南大学	建築学科長	工学部	建築学科
日本建築学会	建22	東京工芸大学	教授	工学部	建築
日本建築学会	建23	奈良女子大学	教授	生活環境学部	住環境学科
日本建築学会	建24	日本文理大学	学科主任	工学部	建築学科
日本建築学会	建25	千葉工業大学	教授	工学部	建築都市環境学科
日本建築学会	建26	琉球大学	教授	工学部	環境建設工学科
日本建築学会	建27	滋賀県立大学	教授	環境科学部	環境建築デザイン学科
日本建築学会	建28	大分大学	准教授	工学部	福祉環境工学科建築コース
日本建築学会	建29	金沢工業大学	教授	環境・建築学部	建築系
日本原子力学会	原1	大阪大学	教授	工学研究科	機械工学専攻
日本原子力学会	原2	名古屋大学	教授	工学研究科	エネルギー理工学専攻
日本原子力学会	原3	福井工業大学	教授	工学部	原子力技術応用工学科
日本原子力学会	原4	北海道大学	教授	工学部	機械知能工学科
日本原子力学会	原5	東京大学大学院	教授	工学系研究科	原子力国際専攻
日本工学教育協会	教1	八戸工業大学	教授・学科長	工学部	土木建築工学科
日本工学教育協会	教2	桐蔭横浜大学	教授	工学部	電子情報工学科
日本工学教育協会	教3	千葉大学	教授	工学部	電気電子工学科

日本工学教育協会	教4	神奈川大学	教授	工学部	情報システム創成学科
日本工学教育協会	教5	岩手大学	准教授	工学部	機械システム工学科
日本工学教育協会	教6	弓削商船高等専門学校	教授	(なし)	電子機械工学科
日本工学教育協会	教7	室蘭工業大学	准教授	工学部	くらし環境領域
日本工学教育協会	教8	宮城工業高等専門学校	非常勤講師	高専	材料工学科
日本工学教育協会	教9	松江工業高等専門学校	教授	なし	電気工学科
日本工学教育協会	教10	大阪大学	准教授	大学院工学研究科	生命先端工学専攻
日本工学教育協会	教11	沼津工業高等専門学校	教授	機械工学科	機械工学科
日本工学教育協会	教12	島根大学	教授	総合理工学部	材料プロセス工学科
日本工学教育協会	教13	室蘭工業大学	准教授	工学部	機械システム工学科
日本工学教育協会	教14	名城大学	准教授	理工学部	環境創造学科
日本工学教育協会	教15	舞鶴工業高等専門学校	教授	電気情報工学科	電気情報工学科
日本工学教育協会	教16	東海大学	教授	工学部	機械工学科
日本工学教育協会	教17	福井大学	学科長	工学部	建築建設工学科
日本工学教育協会	教18	東京工業高等専門学校	准教授	一般教育科	人文社会系
技術倫理協議会	他1	長崎大学	学部長	環境科学部	環境科学科
技術倫理協議会	他2	東洋大学	教授	国際地域学部	国際地域学科
技術倫理協議会	他3	長岡造形大学	事務局教務係係長	事務局	事務局
技術倫理協議会	他4	神奈川工科大学	准教授	情報学部	情報ネットワーク・コミュニケーション学科
技術倫理協議会	他5	長崎大学	准教授	工学部	構造工学科
日本知財学会	他6	旭川工業高等専門学校	教授	電気情報工学科	電気情報工学科
計測自動制御学会, システム制御情報学会	他7	島根大学	教授	総合理工学部	電子制御システム工学科
日本塑性加工学会	他8	富山大学	教授	工学部	機械知能システム工学科
低温工学会	他9	明星大学	学科主任	理工学部	電気電子システム工学科
間接的に依頼されたため不明	他10	香川大学	教授	工学部	信頼性情報システム工学科
学科内教員	他11	島根大学	教授	総合理工学部	材料プロセス工学科
	他12	山形大学	教授	工学部	物質化学工学科
	他13	京都大学	教授	工学部	電気電子工学科